歴史博物館企画展関連特集

豊田佐吉・喜一郎と刈谷

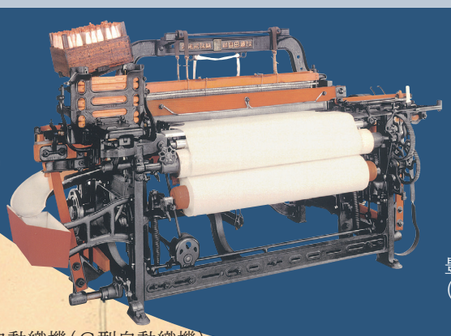
問　歴史博物館（☎63-6100）

豊田喜一郎
（トヨタ自動車㈱提供）

豊田佐吉
（㈱豊田自動織機提供）

刈谷の特徴といえば、何をイメージしますか。「トヨタ」というイメージを持っている人もいるのではないでしょうか。市内には、㈱豊田自動織機をはじめとするトヨタ系企業の本社があります。トヨタ製の自動車の第一号は実は刈谷で作られており、トヨタ自動車の発祥はこの刈谷でした。このように、「トヨタ」と刈谷は縁が深く、ともに発展していったといえます。そして、その「トヨタ」の発展の礎を築いたのは、豊田佐吉と喜一郎親子でした。本特集では、彼らの生涯を紹介します。

A1型試作乗用車（5分の1スケール）
（トヨタ産業技術記念館蔵）



無停止杼換式豊田自動織機（G型自動織機）
（トヨタ産業技術記念館蔵）

豊田式木製人力織機
（トヨタ産業技術記念館蔵）

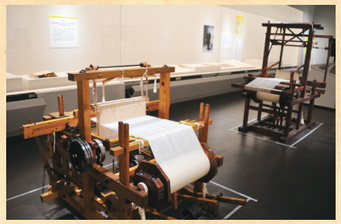
開催中の企画展

刈谷の近代化と豊田佐吉・喜一郎

―準備は出来た　カリヤは邁進します―

刈谷が産業のまちとして発展した経緯を、豊田佐吉と喜一郎の足跡をたどりつつ紹介します。企画展期間中は大人も子どもも楽しめるイベントも多数開催。詳しくは、市民だより12月1日号P4、5をご覧ください。

時　2月9日㈰まで　　場　歴史博物館企画展示室



豊田佐吉、誕生

第1章　発明大好き豊田佐吉

時は幕末。風雲急を告げる慶応3年（1867）、遠江国敷知郡山口村（現在の静岡県湖西市山口）に豊田佐吉は父伊吉と母ゑいの長男として生まれました。

大工の手伝いをする傍ら、機械の発明を志していた佐吉は、明治23年（1890）に開催された第三回内国勧業博覧会の「器械館」に出かけます。そこで、当時の最新技術に触れ、さらに研究に没頭し、豊田式木製人力織機（写真①）を開発します。これは従来の織機より生産性が4割から5割ほど上昇したものでしたが、不景気の影響もあって、ほとんど売れませんでした。さらに性能の良い動力織機の必要性を感じた佐吉は開発に取り組みます。

明治29年、豊田式汽力織機（写真②）が完成します。これは、日本で初めての動力織機であり、安くて丈夫な木鉄混製でした。また、生産性が従来の20倍になり、織物の品質も飛躍的に向上しました。

明治39年、佐吉は豊田式織機㈱の常務取締役技師長に就任します。しかし、佐吉が信念としていた営業的試験が会社に受け入れられず、明治41年に自費で名古屋に試験工場（後の豊田織布菊井工場）を設立し、その工場の経営を弟の佐助に任せます。翌年には、折からの不況で業績が振るわない中で、経営陣と対立した佐吉は豊田式織機㈱の常務取締役の辞表を提出します。

失意の中で佐吉は渡米し、各地で織布工場を見学します。工場規模の大きさや試験設備の充実には驚いたものの、織機の性能や品質に大したことはないと感じ、自身の発明に自信を深めました。

明治44年に帰国した佐吉は現在の名古屋市西区則武新町に豊田自動織布工場（現トヨタ産業技術記念館の地）を設立し、自動織機の試験運転を行います。佐吉は自前で良質な糸を作る必要性を感じ、紡績業にも乗り出し、大正3年（1914）には、豊田自動紡織工場に改称しました。ちょうどその頃、第一次世界大戦の影響で、軍需産業を中心に輸出が伸び、日本は好景気になります。その波に佐吉も乗り、事業は次第に大きくなりました。そのため、個人経営では円滑な運営ができなくなり、大正7年1月に豊田紡織㈱に改組しました。

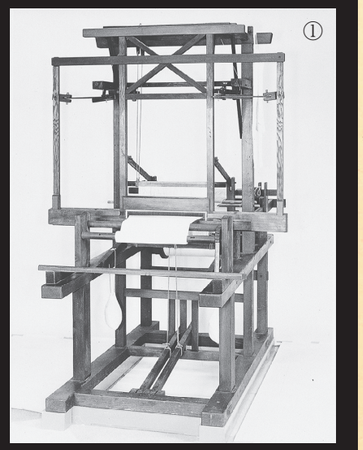
佐吉はこの間も一貫して研究を続け、動力織機を開発した後、自動織機の開発を志します。自動織機とは、運転を止めずによこ糸を補充し、たて糸が切れた場合は自動で停止するなどの装置を備えたものです。自動織機の開発は佐吉の宿願でもありました。

豊田佐吉
（43歳）
（㈱豊田自動織機提供）

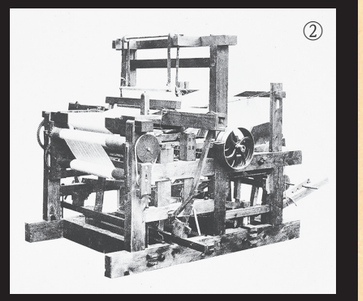
豊田佐吉・喜一郎関連年表

- **慶応3（1867）年**　●豊田佐吉が遠江国敷知郡山口村に生まれる
- **明治23（1890）年**　●佐吉、東京の第三回内国勧業博覧会を見学　●佐吉、豊田式木製人力織機を発明
- **明治27（1894）年**　●豊田喜一郎が静岡県敷知郡吉津村に生まれる
- **明治29（1896）年**　●佐吉、豊田式汽力織機を発明
- **明治43（1910）年**　●佐吉、アメリカ・ヨーロッパを視察
- **明治44（1911）年**　●佐吉、豊田自動織布工場を設立
- **大正7（1918）年**　●佐吉、豊田紡織㈱を設立（現トヨタ紡織㈱）
- **大正10（1921）年**　●佐吉、上海に㈱豊田紡織廠を設立
- **大正13（1924）年**　●無停止杼換式豊田自動織機（G型自動織機）を発明・完成
- **大正15（1926）年**　●㈱豊田自動織機製作所を設立
- **昭和5（1930）年**　●佐吉、10月30日に病気のため逝去

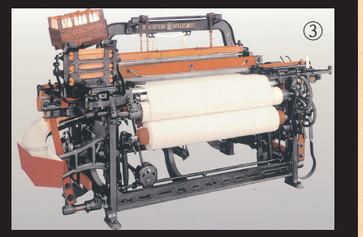
豊田佐吉が開発した織機の変遷



▲豊田式木製人力織機



▲豊田式汽力織機



▲無停止杼換式豊田自動織機（G型自動織機）

いずれもトヨタ産業技術記念館蔵